

「ちょっと」ってどれくらい？

広島市立江波小学校 六年 重本 慧

1. 研究してみよーと思ったきっかけ

つい先日、宿題を終えて、自主勉強をしていた時の母との会話。

(江波小では、家庭学習で宿題をした余った時間で自主勉強をできるようにしている。)

自分「あー疲れた。ちょっと休けい」

母「.....」

母「いつも思うんだけど、ちょっとの休けいが長すぎたよ」

自分「は？長くないし」

たいていこのやり取りで母とのバトルが、発する。

みんなの「ちょっと」ってどれくらいなんだ？ それを「ちょっと」は、ちがいのだろうか。「ちょっと」を数字で表すとどのようになるのか分かるのだろうか。

2. 研究の方法

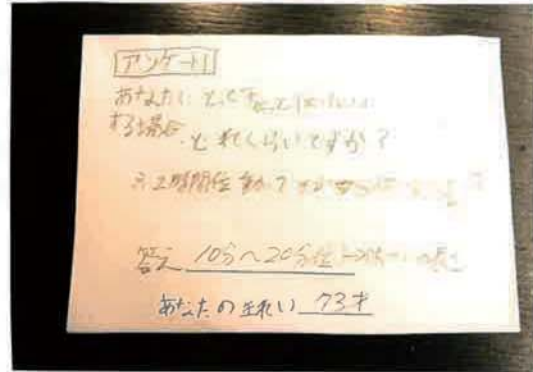
自分の住む団地内の33人(子どもから大人まで)へアンケートをして結果を集計する。

3. 研究の内容

その1. あなたにとって「あふ」と休けい」とはどれくらいですか？

と書いたアンケート用紙を配り集計した結果次のとおりとなった。

5分...	8人
10分...	18人
15分...	2人
20分...	1人
30分...	3人
例外...	1人



この結果より

$$\begin{aligned} & (5分 \times 8人) + (10分 \times 18人) + (15分 \times 2人) + (20分 \times 1人) + (30分 \times 3人) \\ &= (40分 + 180分 + 30分 + 20分 + 90分) \div 32人 \\ &= 11.25分 \end{aligned}$$

となり、1人あたりの平均は11.25分ということが分かった。

しかし、このアンケートには問題があることが見えてきた。

回答してくれた人の中には、

「2時間仕働いてそれから休けいをとる？」という疑問をいたく人
もいて、10分～20分位と回答した。

だからその人の回答を例外としてみ直し、集計には加えな
かった。

つまり、何と比べて「あふ」となのかがあいまいなので、次のアン
ケートでは「何」という部分をはっきりとさせることにした。

その2. あなたにとって40分間勉強をして「ちょっと休けり」
する場合どれくらいだと思いますか？

と書いたアンケート用紙を配り集計した結果次のとおりとなった。

5分... 8人	20分... 3人
8分... 1人	30分... 2人
10分... 12人	60分... 2人
15分... 4人	例外... 1人

この結果より、

$$(5分 \times 8人) + (8分 \times 1人) + (10分 \times 12人) + (15分 \times 4人) + (20分 \times 3人) + (30分 \times 2人) + (60分 \times 2人)$$

$$= (40分 + 8分 + 120分 + 60分 + 60分 + 60分 + 120) \div 32人$$

$$= 14.625分$$

となり1人あたりの平均は14.625分となった。

5分~10分と回答した人がいたので例外とみない集計には加えなかった。

くらべる数 \div もとになる数 = 割合 の法則から、

$$14.625分 \div 40分 = 0.365625$$

となり勉強した時間のおよそ37パーセントが

「ちょっと休けり」の時間となった。

では、もとになる数の37パーセントは、どんな場合の「ちょっと」にもあてはまるのだろうか。

そのろ、時間とはちかて今度は目で見て比べられる
ものでアンケートをとってみた

「これよりちょっと長いものを作ってください」

と紙テープを用意した。

もとになる紙テープの長さ 5cm

〈予想〉 もとになる数×割合 = くらべる数
 $5\text{cm} \times 0.37 = 1.85\text{cm}$

$5\text{cm} + 1.85\text{cm} = 6.85\text{cm}$ とたなり、これに近い
長さのテープを作る人が多いのではないだ
ろうかと思う。

〈結果〉 33人の紙テープの長さを集計した結果、平均の長さ
が6.33cmとたつた。
 $6.33\text{cm} - 5\text{cm} = 1.33\text{cm}$
5cmの紙テープより1.33cm長いところが「ちょっと長い」
ということになる。
言いかえると、

$1.33\text{cm} \div 5\text{cm} = 0.266$ とたなり
5cmのおよそ27パーセント
「ちょっと長い」という結果にな
つた。予想とはちかて27パ
ーセントとはならなかつた。

「ちょっと休けり」の30パーセント
よりも、10パーセントも少ない。
この10パーセントの差、小さいと
見るべきなのか、大きいと見るべき
なのか...



4. 研究結果のまとめ

「ちよ」とを数字で表してみる。目に見えない「時間」と目に見える「長さ」とでは、差が生じることが分かった。

しかし、「時間」と「長さ」の「ちよ」とに共通したものは、元になる数より2倍以上になることはなかった。

「ちよ」とを数字で表すには、人それぞれその感覚（今までの経験など）が左右してしまうためとてもあいまいな数字になる。わたしたちは「もとになる数」に等しいことや何倍だ、といった風に正しい数を表すことはできるが、そうでない場合には「ちよ」とを使って表すのではないだろうか。

5. 感想と課題

研究してみようと思ったことがあった。

40分強めの合間の「ちよと休けい」で15分休けしただけなのに、「休けいはちよとでいい」という母の「ちよと休けい」は、みんなの感覚とずかずにいた。

この研究結果より次回からの、母とのバトルは無くなるだろう。ぼくの感覚は中々のものである。

「ちよ」とを数字で表すには、もっとデータを集めてみなければならぬと思った。

「目に見えないちよ」と「目に見えるちよ」の例題を何種類もテンタ化してみると、もっと面白い結果が得られるのではないだろうか。

また、田舎の人にとどまらず、他県と比べてみるのも面白くなる。日本と世界の「ちよ」とを調べるのも興味深い。